

世界セレクトティブ株式オープン 世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）

おかげさまで設定から1周年 -参考指数は大幅下落も、ファンドは小幅上昇-

2020年4月27日

※投資対象ファンドの委託会社であるノーザン・トラスト・グローバル・インベストメンツ株式会社の提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。「世界セレクトティブ株式オープン」（2019年4月17日設定）および「世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）」（2020年2月3日設定）のこれまでの運用状況、今後の運用方針、厳選投資の考え方等についてお知らせいたします。

「世界セレクトティブ株式オープン」は設定から1周年

- 設定からの1年間、世界の株式市場は、2019年9月以降に大きく上昇したものの、2020年2月以降に新型コロナウイルスの影響を受け急落したため、参考指数は11.1%の下落となりました。
- 「世界セレクトティブ株式オープン」は、国際優良企業への厳選投資と下落リスクの抑制という運用方針に基づいた結果、同期間で0.2%の上昇となりました。

市場動向、運用状況、今後の運用方針

市場動向（2019年4月17日～2020年4月17日）

世界の株式市場は、2019年4月から9月までは米国の利下げが株式市場を押し上げる一方、米中貿易問題が株式市場の動きを不安定なものとししました。9月以降は米中通商協議の合意期待、英国のEU（欧州連合）離脱をめぐる不透明感の後退などから上昇基調をたどりました。2020年2月下旬からは新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界経済に与える影響への懸念が高まり、急落しました。その後も先行きの不透明感から変動の大きな展開となっています。参考指数である海外先進国株式指数（円換算）は11.1%の下落となりました。

こうした中、世界セレクトティブ株式オープンのパフォーマンスは、同期間で0.2%の上昇となりました。持続的な競争優位性（エコノミック・モート）に着目した銘柄選択やポートフォリオ全体でのリスク管理を徹底したことが奏功しました。

なお、世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）のパフォーマンスは、2020年2月3日の設定から4月17日までの期間で12.5%の下落となりました。

※参考指数はMSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）を使用しています。

4月17日時点の運用状況

「世界セレクトティブ株式オープン」の運用状況

「基準価額・純資産の推移」

2020年4月17日現在

基準価額	10,025 円
純資産総額	65億円

期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1か月間	+15.7%	+17.3%
3か月間	-13.3%	-20.0%
6か月間	-3.4%	-10.4%
1年間	+0.2%	-11.1%
3年間	----	----
5年間	----	----
年初来	-10.0%	-17.8%
設定来	+0.2%	-11.1%



「世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）」の運用状況

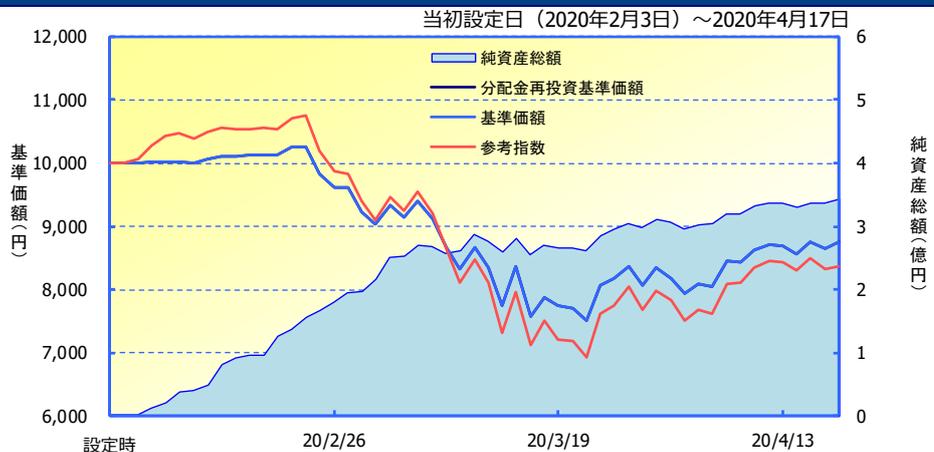
「基準価額・純資産の推移」

2020年4月17日現在

基準価額	8,752 円
純資産総額	342百万円

期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1か月間	+15.6%	+17.3%
3か月間	----	----
6か月間	----	----
1年間	----	----
3年間	----	----
5年間	----	----
年初来	----	----
設定来	-12.5%	-16.3%



※参考指数はMSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）です。

※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※グラフ上の参考指数はグラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は、MSCI Inc.の承諾を得て、MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに、大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCIコクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

今後の運用方針

新型コロナウイルスの影響は大きく、世界経済の減速は避けられないものと考えています。各国の政府による経済対策および中央銀行による金融政策の規模、タイミング、そしてその効果によって、世界景気の先行きは左右されるとみていますが、比較的早期での景気回復の可能性がある一方、景気減速が長引くことも想定しています。

こうした影響による株式市場の極端な変動を事前に予測することは不可能に近く、いわばブラックスワン（予想ができず、起こった時の衝撃が大きい）のような市場イベントであると捉えています。しかしながら、ファンドの運用では、予期せぬ市場イベントに備えるため、**常にポートフォリオのリスクを株式市場全体より20%も低い水準に抑える**ようにしています。2020年3月の月間で、海外先進国株式指数（円換算）は14.9%下落する中で、世界セレクトティブ株式オープンは9.2%の下落、世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）は9.4%の下落にとどまり、下落リスクの抑制を重視したポートフォリオ構築は、その目的を果たす結果となっています。

ポートフォリオ運営の観点では、こうした先行き不透明な環境に対応し、**現金比率を約17%に引き上げ**ています（2020年3月末）。そして、重要なことは、**この危機に対して弱い弱と考えられる業種には、ほぼ投資していない**ということです。銀行、エネルギー、航空、旅行関連などの業種の銘柄は保有していません。多くの企業で収益が大幅に低下する可能性が高いと見込まれますが、その中でも、勝者と敗者があると考えています。例えば、企業向けのソフトウェアです。今日、多くの人がテレワークやビデオ会議に取り組んでいますが、これはまさにマイクロソフトにとって追い風と言えます。また、在宅でのショッピング需要の増加は、アリババの好材料になると考えられます。

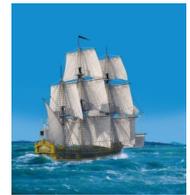
2007年から開始した類似運用戦略ファンドでは、これまで何度となく危機的な状況を経験してきましたが、常に元本毀損のリスクを可能な限り軽減させることに努めてきました。株式市場の予期せぬ混乱からお客様の資産を守るための備えを提供し、かつ長期で高いリターンを追求することこそ、我々の運用方針です。**持続可能な競争優位性「エコノミック・モート（経済の堀）」を持つ国際優良企業への厳選投資と下落リスクの抑制**という運用方針は一貫したものであり、今後も継続していきます。

マゼラン・アセット・マネジメント
運用責任者
ハーミッシュ・ダグラス



ファンドのコンセプト

『時代の大きな波（メガトレンド）に乗って 超厳選（セレクトティブ）投資』



トップダウンの視点で、社会を変革するような複数のメガトレンドを捉え、ボトムアップの視点で、持続可能な競争優位性を持つ企業を見いだします。トップダウンとボトムアップの視点を融合させ、収益の予測可能性の高い企業を見極めることで、短期的な市場変動を乗り越え、長期的な投資成果を追求します。

厳選投資の銘柄選定プロセス

1. 『時代の大きな波（メガトレンド）』・・・トップダウンの視点（マクロ分析）

- 人口動態や技術革新などを踏まえ、複数のメガトレンドを設定
- 経済動向や市場環境などを踏まえ、最新のメガトレンドに更新

ポートフォリオにおける現在のメガトレンド例 2020年3月時点

メガトレンド	投資の着眼点	銘柄例
キャッシュレス・フィンテック	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現金からカードやスマホによるキャッシュレス決済への移行 ✓ 実店舗からネットショッピングによるデジタル商取引への移行 	<u>ビザ</u> <u>マスターカード</u> など
テクノロジー・プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 特定のプラットフォーム（システム、eコマース、検索、SNSなど）への利用者の集中 ✓ 事業領域（金融、自動運転など）の拡大 	<u>フェイスブック</u> <u>アルファベット</u> など
新興国での中間層増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中国で新たに3億人とも推計される中間層の消費市場が出現 ✓ 所得増加に伴う消費行動の変化 	<u>アリババ</u> <u>スターバックス</u> など

（出所）マゼラン社

上記の銘柄はあくまでも投資の考え方を紹介したものであり、個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを保証するものではありません。

2. 『超厳選（セレクトティブ）投資』・・・ボトムアップの視点（企業調査）

- 持続可能な競争優位性「エコノミック・モート（経済の堀）」という観点から企業を評価
- 「エコノミック・モート」を持つ企業は、収益の予測可能性が高いため、買い手から高く評価されるというM&A（企業の合併・買収）的な視点で企業を評価

「エコノミック・モート」の具体的な特徴

- 規模の優位性
- 無形資産（ブランド、特許、知的財産）
- 乗換えコスト
- ネットワーク能力（アクセス、価格競争力、寡占）
- 心理的な優位性（安心、親しみ感）



モートとは城の堀のことで、難攻不落の城の堀のように競争優位性が脅かされない高い参入障壁

<規模の優位性>

市場シェアやコスト競争力で、他社の追随を許さないケースなどです。アルファベットの場合、同社のグーグルは世界（中国を除く）の検索市場の約90%のシェアを有し、広告収入で競争優位性があると考えられます。

<無形資産>

ブランドや特許で、他社がまねすることが難しいケースなどです。LVMHモエヘネシー・ルイヴィトンの場合、同社のルイヴィトンは160年以上の歳月をかけて高級ブランドとしての地位を築いているため、競争優位性があると考えられます。

<乗換えコスト>

代替が難しいことで、顧客を囲い込むケースなどです。マイクロソフトの場合、同社のウィンドウズは世界のパソコンの70%以上に搭載され、多くの人に利用されている中、既存の利用者は他への乗換が難しいため、競争優位性があると考えられます。

<ネットワーク能力>

ネットワークとは商取引に不可欠なインフラに近い概念で、独占的な地位を築いているケースなどです。ビザの場合、世界で30億枚以上のクレジット・カードが発行されているため、世界最大級の決済ネットワークとして競争優位性があると考えられます。

<心理的な優位性>

品質や安全性に顧客の圧倒的な支持があることで、割高な価格設定ができるケースなどです。スターバックスの場合、世界で約3万店舗あり、緑の人魚のロゴは幅広く親しまれているため、競争優位性があると考えられます。

（出所）マゼラン社

上記の銘柄はあくまでも投資の考え方を紹介したものであり、個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを保証するものではありません。

エコノミック・モートを持つ企業を特定するには、参入障壁、代替品のリスク、取引相手との交渉力、業界の競争の激しさなど様々な角度から深く考察します。先進国株式の代表的な指数であるMSCI Worldは約1,600銘柄で構成されていますが、エコノミック・モートを持つ企業はごくわずかであるとマゼラン社は考えています。2020年3月末現在、保有銘柄数は25となっていますが、上記の優位性を複数持つ企業もあります。

こうした銘柄選定プロセスに従って、株式市場との連動性を80%程度以下に維持し、リスクを抑制しながら、メガトレンドに乗っている企業の中から、エコノミック・モートによる評価で確信度の高い20~40銘柄に厳選投資します。

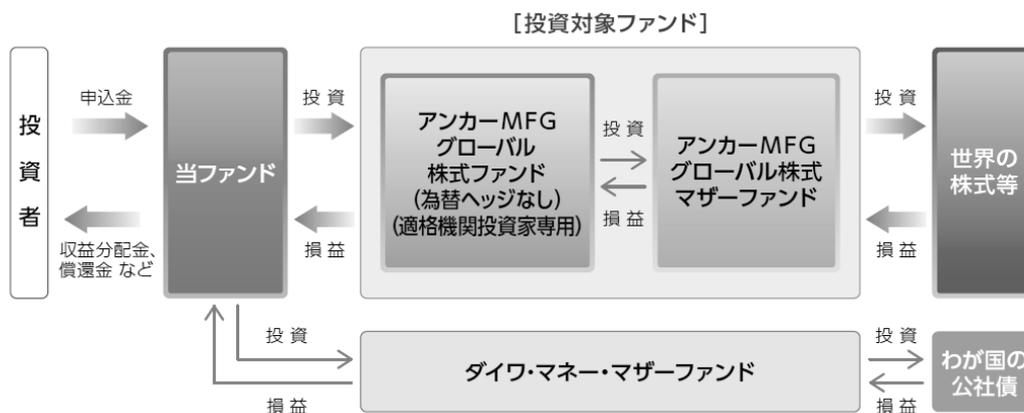
Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

日本を除く世界の金融商品取引所上場株式等に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 日本を除く世界の金融商品取引所上場株式等に投資します。
(注)「株式等」…DR(預託証券)およびリート(不動産投資信託証券)を含みます。
2. 株式等の運用は、マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッドが担当します。
3. 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、世界の株式等に投資します。



※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

Ⅰ 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク(株価の変動、リート価格の変動)」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

※一銘柄当たりの組入比率が高くなる場合があります。

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

I ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 3.3% (税抜 3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.1275% (税抜 1.025%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.825% (税抜 0.75%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.9525% (税込) 程度	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 投資信託にはクーリング・オフ制度は適用されません。

世界セレクトティブ株式オープン／世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。